

「こめっこ」について

1. 事業目的

聴覚障がいのある乳幼児とその保護者が、自然に獲得する言語として、手話を選択しようとするときに、そのことを支援する環境を整備する。

2. 実施概要

平成 29 年 6 月より、以下のとおり、乳幼児手話獲得支援事業「こめっこ」を実施。

※各回の実施概要は別添①参照。

(日時・場所)

○原則、月 2 回開催（第 1・第 3 土）。

○場所は、基本的に、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）。

(主なプログラム)

○各回、2 時間半のプログラム。以下の形式にて実施している。

※すべての時間帯に手話通訳を配置。健聴の保護者に対しても情報保障を図っている。

前半（1 時間）	・親子一緒に、絵本の読み聞かせや手遊び・からだ遊びなどを通じて、楽しく手話に触れる。
後半（1 時間半）	・親子分かれて、河崎教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）を中心に、保護者相談（聞こえのこと、子育てのこと）に対応（その間、子どもは自由遊び）。手話（しゅわ）ろうタイム。

○また、子どもの年齢層や保護者のニーズ等を踏まえ、以下のとおりプログラムを拡充。

[例]・参加する子どもの年齢が幅広いため、第 2 回以降は、「0・1・2 歳児」と「3 歳児以上」にグループ分けして、遊びや相談対応を行っている。

・保護者からの「簡単な手話を学びたい」というニーズを受け、第 4 回以降は、簡単な手話を学べる「手話ろうタイム」を実施。※動画をフェイスブックで公開

・第 6 回は、「一般社団法人手話エンターテイメント発信団 oioi」「大阪府広報担当副知事もずやん」をゲストに招き、手話によるパフォーマンスを取り入れた特別企画を実施。

・保護者向けにミニ講演会（専門家の話や聴覚障がいのある方の体験談等）を実施。

(子どもの参加者)

○各回、30人程度。「保護者に聴覚障がいがなく、子どもに障がいがある」以外にも、きょうだいで参加、「保護者に聴覚障がいがあり、子どもに障がいがない」など、様々な参加があり、ほとんどがリピーター化。毎回3人程度の新規参加あり。

○参加する子どもの年齢は、0～13歳と幅広く、中心層は2・3・4歳児。

		第1回 (6/17)	第2回 (7/1)	第3回 (7/15)	第4回 (8/5)	第5回 (8/19)	特別企画 (9/2)	第6回 (9/16)	第7回 (9/30)
参加者 数(人)	合計	75	68	54	44	44	55	55	35
	子ども	38	34	27	24	23	29	28	19
	保護者	37	34	27	20	21	26	27	16

(実施体制)

○河崎教授のスーパーバイズのもと、以下の体制で実施。

	人数	役割
スーパーバイザー	1名(河崎教授)	こめっこ全般に関するスーパーバイズ
メインスタッフ	2名(大聴協職員)	こめっこの企画・運営、事務など
サブスタッフ	5～7名 ※臨床心理士、手話通訳士、 大学生(教育学部)など	企画・運営の補助、当日の活動のサポート
ボランティアスタッフ	0～4名	受付、当日の活動のサポート

※ろうのスタッフは、子どもたち、保護者にとってのロールモデルでもある。

3. 中間決算

※別添②参照

4. 取組みの効果

○小さな子どもが簡単な手話を使い始めている他、保護者から、「決して1人じゃないんだと安心した」「未来が少し明るくなった」といった声が寄せられており、手話の獲得以外にも効果あり。

○保護者同士、子ども同士で、地域を超えた交流が生まれている。

○メディアに取り上げられるなど、「こめっこ」の取組みに対する理解が広がっている。

○乳幼児の手話言語獲得に関わる関係機関で構成する「乳幼児期手話言語獲得支援ネットワーク(事務局:大阪府)」から、「こめっこ」の派遣依頼が寄せられるなど、「こめっこ」との具体的な連携にも発展。